

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 40 号

第 40 週 (10月 3日 ~ 10月 9日)

発行年月日:平成17年(2005年) 10月 14日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

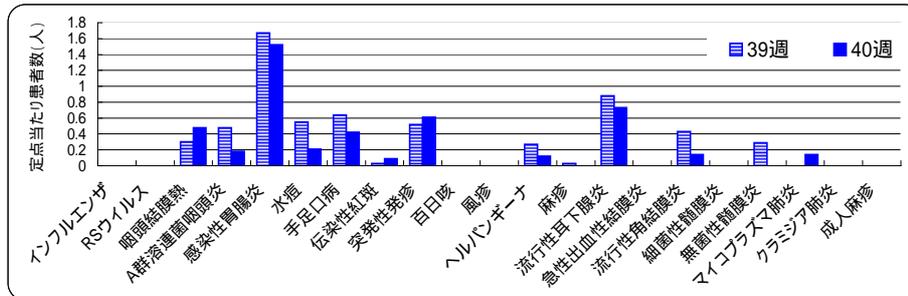
今週の感染症動向

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(9月26日～10月2日)の報告数よりさらに少なくなっており、増加を示した疾患は咽頭結膜熱、伝染性紅斑、突発性発しんおよびマイコプラズマ肺炎です。その他の疾患については減少または変化なしとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

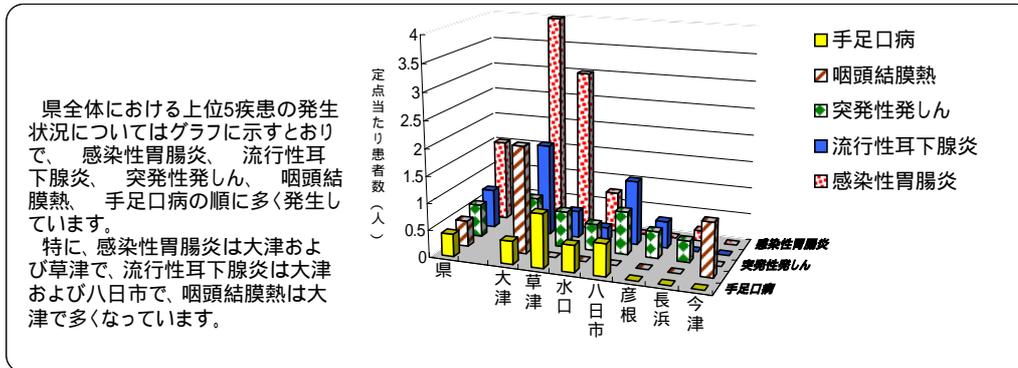
咽頭結膜熱は天津で先週の定点当たり患者数より増加し2.00となっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は先週より減少していますが、八日市の定点当たり患者数は1.00と多くなっています。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)も先週より減少していますが、天津の定点当たり患者数は1.71と多くなっています。

また、全数把握の5類感染症であるジアルジア症1名の届出がありました。

定点把握の対象となる5類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(平成 17年第40週, H17.10.3~H17.10.9)



感染症のミニ知識 ~ ジアルジア症 ~

ジアルジア症はランブル鞭毛虫と呼ばれる *G. lamblia* に感染することにより起こります。現在、わが国におけるジアルジア感染者の多くは発展途上国からの帰国者(来日者)で占められていますが、男性同性愛者間にもみられることがあります。また、先進諸国においては水系感染による集団発生が問題となっています。

・**感染様式**:糞口感染、水系感染

・**臨床症状**:下痢、衰弱感、体重減少、腹痛、悪心、脂肪便

・**治療**:ニトロイミダゾール系の薬剤

・**予 防**:十分な手洗い、HIV感染者などの免疫機能が低下している人は煮沸消毒されていない水道水を摂取しない。

< 感染症法における取扱い >

5類感染症全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る必要があります。届出基準は、「診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断がなされたもの」となっています。

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (40週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (40週)	全国 (40週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 6	461	9	576
	腸チフス	0	0	39	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	2,935	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 34	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 141	0	136
	オウム病	0	1	26	1	39
	デング熱	0	1	56	2	45
	マラリア	0	0	52	2	73
	レジオネラ症	0	2	186	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	4	541	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	220	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	118	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	46	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	4	888	6	1,119
	ジアルジア症	1	1	57	2	85
	梅毒	0	0	407	4	516
	破傷風	0	0	79	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	55	0	49
	急性脳炎	0	2	^{(*)3} 146	1	164

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

*3:平成17年第38週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

全国における全数報告感染症の発生状況 - iDWR2005年第38週、9/19～9/25より -

1類感染症: 報告なし		4類感染症: E型肝炎	1例
2類感染症: 細菌性赤痢 15例		A型肝炎	5例
腸チフス 1例		5類感染症: アメーバ赤痢	6例
3類感染症: 腸管出血性		後天性免疫不全症候群	4例
大腸菌感染症 54例		ジアルジア症	1例
4類感染症: エキノコックス症 1例		髄膜炎菌性髄膜炎	1例
デング熱 1例		梅毒	5例
日本紅斑熱 3例		急性脳炎	3例
レジオネラ症 9例			

2) 定点把握の対象となる5類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第35～40週、8/29～10/9)

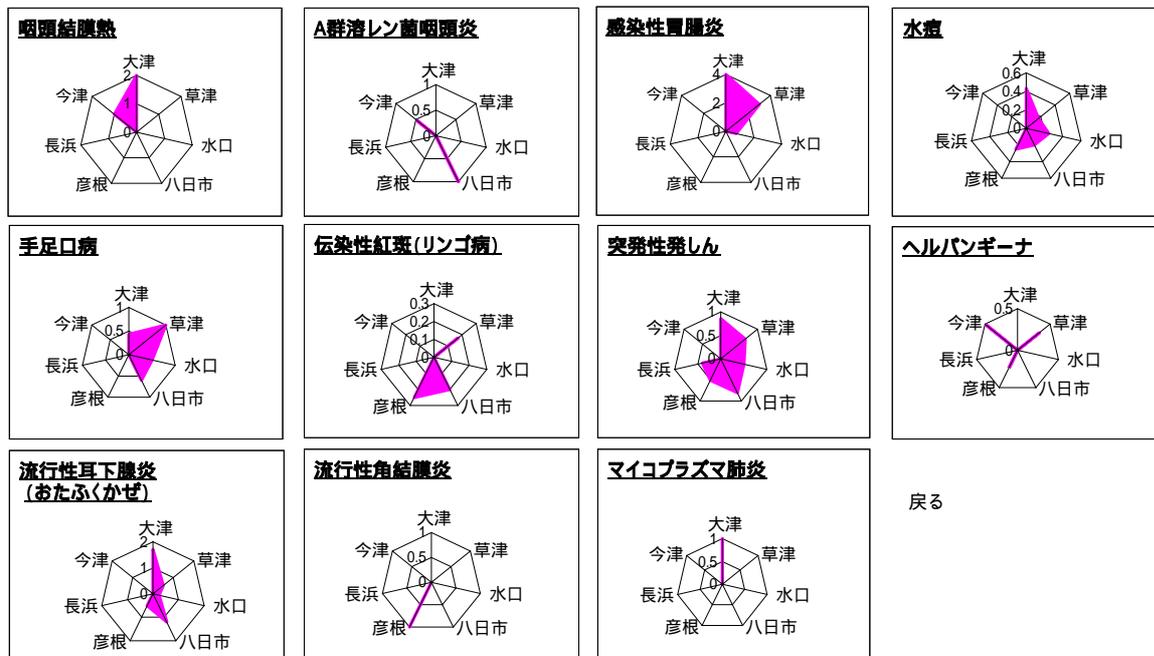
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	35週		36週		37週		38週		39週		40週	
	(8/29～)	(9/5～)	(9/12～)	(9/19～)	(9/26～)	(10/3～)	36	37	38	39	40	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.76	0.70	0.64	0.61	0.30	0.48						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	0.18	0.33	0.21	0.48	0.18						
感染性胃腸炎	1.30	1.36	1.94	1.33	1.67	1.52						
水痘	0.42	0.45	0.61	0.73	0.55	0.21						
手足口病	0.85	1.12	1.21	1.00	0.64	0.42						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0.06	0.06	0.03	0.03	0.09						
突発性発疹	0.91	0.64	0.70	0.52	0.52	0.61						
百日咳	0	0.03	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	1.70	1.06	1.00	0.67	0.27	0.12						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0.03	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.85	0.91	0.64	0.52	0.88	0.73						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.43	0.57	0.14	0.43	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0.43	0.14	0	0.29	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0.14	0	0	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第40週、10/3～10/9)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)	
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津		
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0		
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
咽頭結膜熱	0.48	2.00	0	0	0	0	0	1.00	■	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.18	0	0	0	1.00	0	0	0.50	■	■
感染性胃腸炎	1.52	4.00	3.00	0.75	0	0	0.20	0	■	■
水痘	0.21	0.43	0.17	0.25	0.20	0.25	0	0	■	■
手足口病	0.42	0.43	1.00	0.50	0.60	0	0	0	■	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0	0.17	0	0.20	0.25	0	0	■	■
突発性発しん	0.61	0.86	0.67	0.50	0.80	0.50	0.40	0	■	■
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0		
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0		
ヘルパンギーナ	0.12	0	0.33	0	0	0.25	0	0.50	■	■
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0		
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.73	1.71	0.50	0.25	1.20	0.50	0	0	■	■
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	■	■
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
マイコプラズマ肺炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0	■	■
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0		
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0		

0 1 2
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

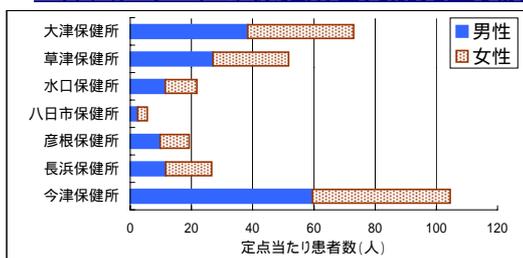


戻る

今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。感染性胃腸炎は大津および草津で多くなっています。手足口病は第38週(9/19～9/25)以降減少傾向を示していますが、大津、草津、水口および八日市でやや多くなっています。ヘルパンギーナも順調に減少しており、昨年の同時期とほぼ同様の発生状況となっています。

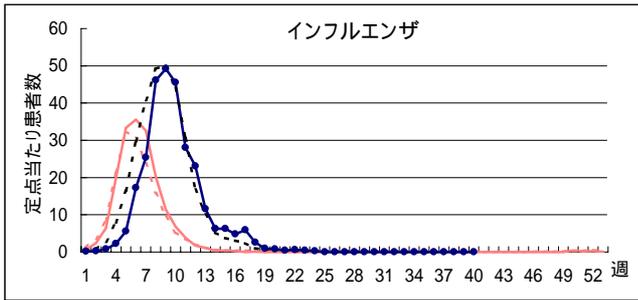
ヘルパンギーナの保健所管内別発生状況(平成17年第1～40週、H17.1.3～H17.10.9)



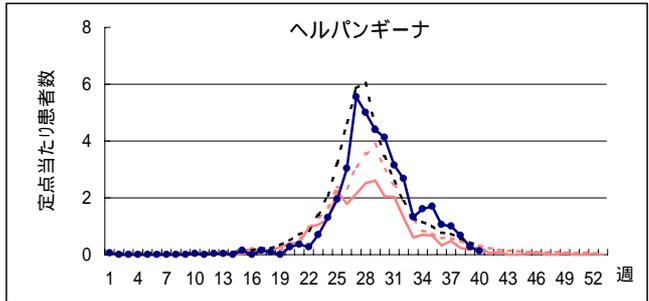
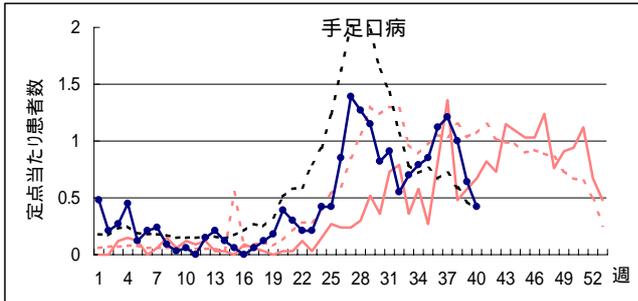
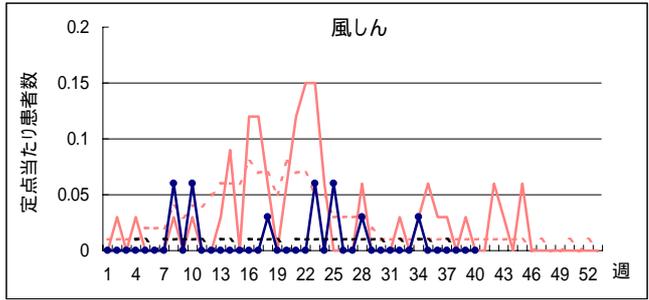
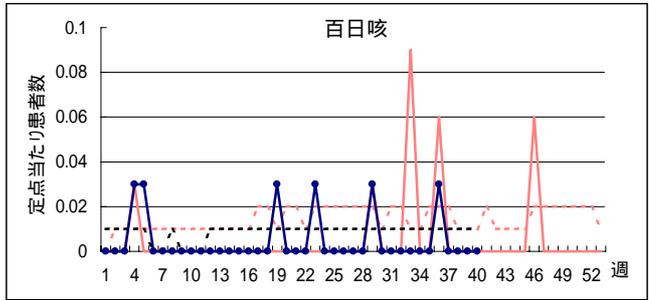
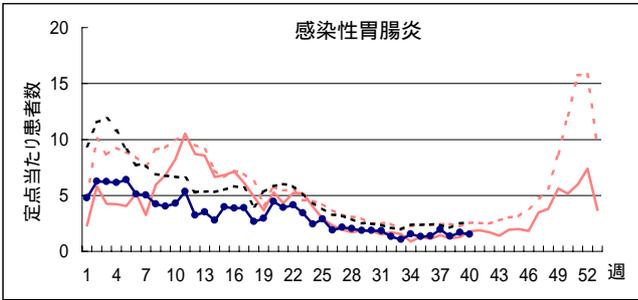
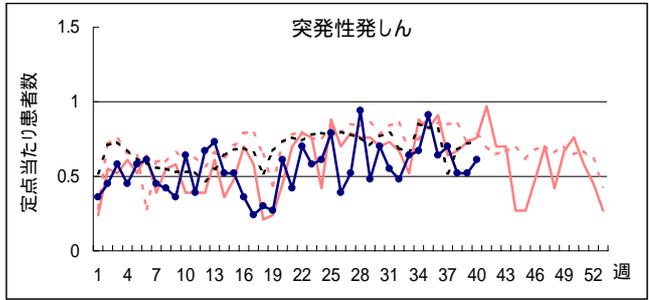
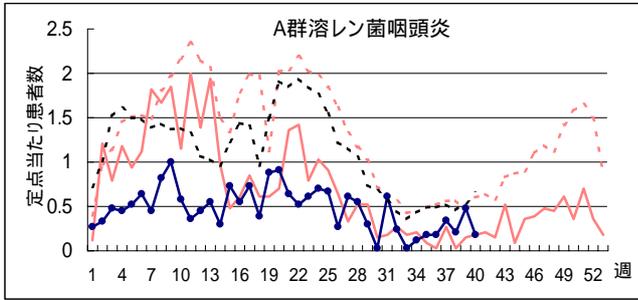
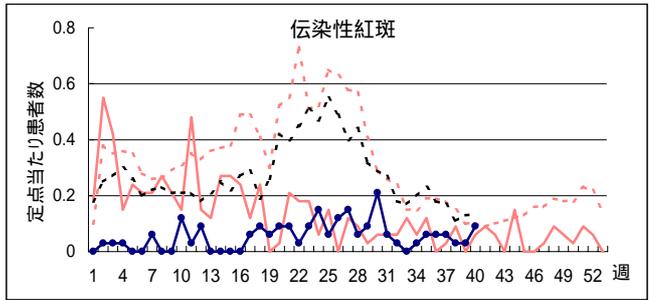
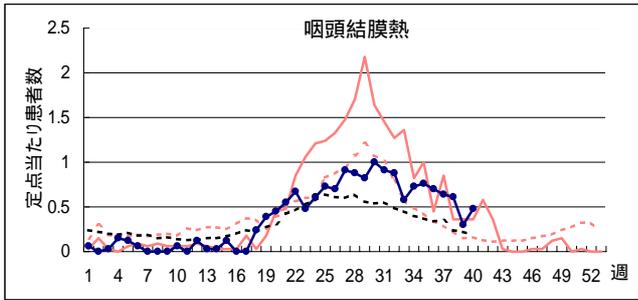
ヘルパンギーナの保健所管内別・性別発生状況はグラフに示すとおりです。

年齢別発生状況は、1歳未満が9.4%、1～5歳が81.4%、6～9歳が8.1%、10～14歳が0.7%、15～19歳が0.1%および20歳以上が0.3%となっています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第40週、H17.1.3～H17.10.9)



H16 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H17 { 滋賀 —●—●—
 全国 ······



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第40週、H17.1.3～H17.10.9)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

